

令和元年度
下水道に関する人身事故発生状況について
(令和2年1月末現在)

1. 総括
2. 維持管理作業
3. 工事

国土交通省 水管理・国土保全局
下水道部

1.人身事故発生状況(総括)

(令和2年1月末現在)

令和元年度

(単位:件)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	1月までの集計	合計
維持管理作業	1. 死亡事故	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	2. 負傷事故	1 (3)	1 (3)	1 (2)	3 (4)	1 (4)	1 (4)	5 (3)	5 (4)	5 (3)	5 (2)	0 (3)	0 (2)	28 (32)	28 (37)
	合計	1 (3)	1 (3)	1 (2)	3 (4)	1 (4)	1 (4)	5 (3)	5 (4)	5 (3)	5 (2)	0 (3)	0 (2)	28 (32)	28 (37)
	累計	1 (3)	2 (6)	3 (8)	6 (12)	7 (16)	8 (20)	13 (23)	18 (27)	23 (30)	28 (32)	28 (35)	28 (37)	-	-
工事	1. 死亡事故	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	2 (0)	0 (2)	0 (0)	6 (0)	6 (2)
	2. 負傷事故	4 (3)	4 (4)	3 (5)	7 (14)	6 (4)	4 (5)	15 (6)	9 (10)	9 (9)	5 (9)	0 (9)	0 (3)	66 (69)	66 (81)
	合計	4 (3)	5 (4)	3 (5)	7 (14)	6 (4)	5 (5)	15 (6)	10 (10)	10 (9)	7 (9)	0 (11)	0 (3)	72 (69)	72 (83)
	累計	4 (3)	9 (7)	12 (12)	19 (26)	25 (30)	30 (35)	45 (41)	55 (51)	65 (60)	72 (69)	72 (80)	72 (83)	-	-
合計	1. 死亡事故	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	2 (0)	0 (2)	0 (0)	6 (0)	6 (2)
	2. 負傷事故	5 (6)	5 (7)	4 (7)	10 (18)	7 (8)	5 (9)	20 (9)	14 (14)	14 (12)	10 (11)	0 (12)	0 (5)	94 (101)	94 (118)
	合計	5 (6)	6 (7)	4 (7)	10 (18)	7 (8)	6 (9)	20 (9)	15 (14)	15 (12)	12 (11)	0 (14)	0 (5)	100 (101)	100 (120)
	累計	5 (6)	11 (13)	15 (20)	25 (38)	32 (46)	38 (55)	58 (64)	73 (78)	88 (90)	100 (101)	100 (115)	100 (120)	-	-

※下段()書きは前年度(平成30年度)の値
 ※国土交通省へ報告のあった事故について集計

2.人身事故発生状況(維持管理作業)

(令和2年1月末現在)

令和元年度

(単位:件)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平成30年度 合計
事業者主体	1. 都道府県	1	0	0	2	0	0	1	3	2	2	0	0	11	14
	2. 政令市	0	0	0	1	0	0	1	1	0	1	0	0	4	9
	3. 一般市	0	1	1	0	1	1	1	0	3	2	0	0	10	12
	4. 町村	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	3	2
	5. その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	1	1	1	3	1	1	5	5	5	5	0	0	28	37
発生施設	1. 管渠	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	2. マンホール	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	3	4
	3. 処理場	1	1	0	2	1	1	3	4	4	1	0	0	18	22
	4. ポンプ場	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2	5
	5. その他	0	0	1	1	0	0	1	1	0	1	0	0	5	5
	合計	1	1	1	3	1	1	5	5	5	5	0	0	28	37
事故類型	死亡事故	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	1. 墜落・転落	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2. はさまれ・巻き込まれ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3. 飛来・落下	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4. 切れ・こすれ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5. 転倒	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	6. 激突	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	7. 土砂崩壊	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	8. 交通事故	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	9. 感電	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	10. おぼれ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	11. 火災・爆発	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	12. 公衆災害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	13. 作業車両の横転	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	14. その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	負傷事故	1	1	1	3	1	1	5	5	5	5	0	0	28	37
	1. 墜落・転落	1	0	1	1	0	1	0	2	2	1	0	0	9	7
	2. はさまれ・巻き込まれ	0	0	0	0	0	0	4	1	1	0	0	0	6	13
	3. 飛来・落下	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	4. 切れ・こすれ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	5. 転倒	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	3	3
	6. 激突	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0
	7. 土砂崩壊	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	8. 交通事故	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2	0
	9. 感電	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	10. おぼれ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	11. 火災・爆発	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	12. 公衆災害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
13. 作業車両の横転	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
14. その他	0	0	0	2	1	0	0	1	1	2	0	0	7	6	
合計	1	1	1	3	1	1	5	5	5	5	0	0	28	37	
被災者数(人)	1. 自治体職員	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	2
	2. 委託先業者	1	1	1	3	1	1	4	4	5	5	0	0	26	31
	3. 第三者	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	4
	合計(人)	1	1	1	3	1	1	5	5	5	5	0	0	28	37
	累計	1	2	3	6	7	8	13	18	23	28	28	28	-	-

平成30年度

(単位:人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
被災者数(人)	1. 自治体職員	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	2
	2. 委託先業者	3	0	1	3	4	4	3	4	3	1	3	2	31
	3. 第三者	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
	合計(人)	3	3	2	4	4	4	3	4	3	2	3	2	37
	累計	3	6	8	12	16	20	23	27	30	32	35	37	-

※国土交通省へ報告のあった事故について集計

人身事故情報データベース(維持管理作業)

令和2年1月末現在

NO.	発生年月日	事故情報			事故概要・発生防止策		被災者				
		事業主体	発生施設	事故類型	事故概要	再発防止策等	被災者	年齢	性別	被害状況	
1月											
1	R2.1.16	1. 都道府県	その他	①負傷事故	5.転倒	採水業務のため、最終処分場に向かった。入口の門扉を閉めるために降車して門扉を閉め、車に戻る際に左足を後方に滑らせ、左前方に転倒。(路面が凍結していることに気付かなかった。)	協力業者に対して、作業前のKYの徹底を指示。(特に、冬季の留意点について)	委託先業者	52	男	左肩骨折、骨盤左側にヒビ
2	R2.1.24	3. 一般市	ポンプ場	①負傷事故	14.その他	作業員が作業用梯子を屋上から下げる作業を補助しようとして、上屋の下まで行こうと土手を登る際、右ふくらはぎに痛みを感じた。当日病院を受診し1~2週間の加療が必要と診察を受けるが、3日間の休養後、職場に復帰した。当日の天候は晴れで、土手は滑る状態ではなく、寒さにより筋肉が硬くなった状態で急に動いたことが原因と推測される。	注意看板の設置。作業開始前の準備運動の徹底。事象の周知を行い、同様事故の防止に努める。	委託先業者	66	男	右下腿腓腹筋挫傷
3	R2.1.27	3. 一般市	マンホール	①負傷事故	8.交通事故	浚渫作業中、通行止めにしてた道を地元の方が自動車を通る為、ガードマンが一時的に開放。人孔内で作業を終えた作業員が地上に頭を出した際、地元の方が運転する自動車が入孔を跨ぐように通過し(時速10km程度)、バンパーで頭部を強打した。その反動で人孔蓋の縁に左側頭部を打ち付け裂傷を負った。	作業実施箇所にも交通誘導員を配置するとともに、業務従事者間の情報共有を徹底させる。	委託先業者	38	男	左側側頭部裂傷(12針)
4	R2.1.29	1. 都道府県	処理場	①負傷事故	14.その他	排煙処理棟循環ポンプを分解整備するために障害となっていたドレン管を取り外した。その配管内に残っていた苛性ソーダ(強アルカリ)の残液が作業員の右臀部近辺に付着し、薬品火傷を起こした。事故原因としては、現地で不明な管が発見されたが、事業者が県への確認を怠り、作業効率を優先してドレン配管を取り外した事による。	現場の支障物件の有無等を総点検し、施工計画書に漏れや不備などが無いか再チェックする。元請が下請に作業前ヒアリングを行うなど、元請と下請の確認体制を再構築する。不明管を発見した際には、配管名称等を標記する。	委託先業者	48	男	右臀部薬品火傷(3×2cm)
5	R2.1.30	2. 政令市	マンホール	①負傷事故	1.墜落・転落	本管カメラ調査のため、マンホール内を降下中、足掛金物が破損し、約1メートルの高さから転落した。背中から脇腹にかけて強打し、肋骨を骨折。足掛金物の腐食状況を十分に確認しなかったことが原因。	マンホール侵入時における足掛金物の確認等について、安全教育を徹底する。当該足掛金物について早急に修繕を行う。	委託先業者	44	男	肋骨骨折

3.事故発生状況(工事) (令和2年1月末現在)

令和元年度

(単位:件)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平成30年度 合計
事業者主体	1. 都道府県	1	1	1	0	0	0	1	1	3	1	0	0	9	11
	2. 政令市	3	6	2	4	2	2	6	1	1	2	0	0	29	43
	3. 一般市	2	3	0	5	6	6	7	7	5	4	0	0	45	65
	4. 町村	0	0	0	1	0	0	2	2	1	0	0	0	6	7
	5. その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	6	10	3	10	8	8	16	11	10	7	0	0	89	126
工事分類	1. 管きょ開削	1	9	0	5	6	6	7	6	6	5	0	0	51	79
	2. 管きょ推進	3	0	0	2	0	1	0	1	0	0	0	0	7	13
	3. 管きょシールド	1	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	4	7
	4. 管きょその他	0	1	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0	5	9
	5. 処ボ土木建築	1	0	0	0	0	1	6	1	1	2	0	0	12	7
	6. 処ボ機械電気	0	0	2	0	1	0	1	3	3	0	0	0	10	10
	7. 処ボその他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	合計	6	10	3	10	8	8	16	11	10	7	0	0	89	126
事故類型	1. 墜落・転落	1	0	2	0	1	1	5	4	1	2	0	0	17	25
	2. はさまれ・巻き込まれ	0	1	0	3	2	3	5	3	3	2	0	0	22	13
	3. 飛来・落下	0	0	0	0	1	0	1	0	3	0	0	0	5	9
	4. 切れ・こすれ	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	2	5
	5. 転倒	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	2	11
	6. 激突	0	1	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	4	2
	7. 土砂崩壊	0	1	0	0	1	1	1	1	1	1	0	0	7	5
	8. 交通事故	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3
	9. 感電	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	10. おぼれ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	11. 火災・爆発	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	12-1. 公衆災害(人身)	3	2	1	0	0	0	2	1	0	1	0	0	10	4
	12-2. 公衆災害(物損)	2	5	0	3	2	3	1	1	0	0	0	0	17	42
	13. 作業車両の横転	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
14. その他	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	7	
合計	6	10	3	10	8	8	16	11	10	7	0	0	89	126	
被災者数(人)	1. 死亡	0	1	0	0	0	1	0	1	1	2	0	0	6	2
	2. 重傷	1	2	2	4	6	4	13	8	4	5	0	0	49	70
	3. 軽傷	3	2	1	6	0	0	3	1	5	0	0	0	21	19
	合計(人)	4	5	3	10	6	5	16	10	10	7	0	0	76	91
	累計	4	9	12	22	28	33	49	59	69	76	76	76	-	-
その他(民間発注工事など)															
	1. 死亡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2. 負傷	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	

平成30年度

(単位:人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
被災者数(人)	1. 死亡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
	2. 重傷	2	4	5	10	3	5	5	8	10	7	8	3	70
	3. 軽傷	1	1	1	9	1	0	1	2	0	2	1	0	19
	合計(人)	3	5	6	19	4	5	6	10	10	9	11	3	91
	累計	3	8	14	33	37	42	48	58	68	77	88	91	-
その他(民間発注工事など)														
	1. 死亡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2. 負傷	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1

※国土交通省へ報告のあった事故について集計

事故情報データベース(工事)

令和2年1月末現在

NO.	発生日月				事故情報			被災者		
		事業主体	工事分類	従事作業	発生場所	事故概要	事故類型	年齢	性別	被害状況
1月										
1	R2.1.9	2.政令市	5.処ポ土木建築	支保工の解体	現場内	水処理施設の築造工事において、土留支保工の解体作業中、カバープレートをクレーンで吊上げる際に、仮置きしていた鋼材と地面の隙間にカバープレートが入り込み、鋼材の片側が持ち上がったことで、鋼材が転倒し、その付近にいた作業員が倒れた鋼材にはさまれた。	2.はさまれ・巻き込まれ	70	男	死亡
2	R2.1.21	3.一般市	1.管きょ開削	掘削	現場内	下水道管路の布設工事において、バックホウにて掘削した後の床均し作業中、掘削側面の土砂が崩壊し、掘削面内にいた作業員の膝から下が埋もれて負傷した。	7.土砂崩壊	67	男	左脛骨近位端骨折
3	R2.1.22	3.一般市	1.管きょ開削	埋戻し	現場内	埋戻材の運搬作業中に1tキャリアダンプで後退していたところ、後方に設置されていた切梁に気づかず、運転手がキャリアダンプと切梁の間にはさまれた。	2.はさまれ・巻き込まれ	55	男	左頬、下顎の骨折、左耳の裂傷
4	R2.1.24	3.一般市	1.管きょ開削	点検	現場内	下水道管路の布設工事において、道路上に標示施設や人孔の周辺に防護施設を設置せず、人孔及び管内の点検作業を行っていたところ、作業員が人孔から路上に頭を出した際、一般の通行車両に接触し、約3.3m下管内に落下した。	1.墜落・転落	46	男	死亡
5	R2.1.27	1.都道府県	5.処ポ土木建築	-	現場内	最終沈殿池の築造工事において、仮設の作業床が固定されていなかったため、床が外れ、作業員が3.7m下の作業床に転落した。	1.墜落・転落	55	男	左肩鎖骨の骨折、腰骨と尾骶骨の圧迫骨折
6	R2.1.27	2.政令市	1.管きょ開削	資材運搬	現場外	下水道工事施工箇所から汚泥受入地へ排泥の運搬中、自転車に乗っていた被災者を追越そうとしたところ、ダンプトラック左後部が被災者と接触した。	12-1.公衆災害(人身)	85	男	顔面頭蓋骨骨折及び脳挫傷
7	R2.1.28	3.一般市	1.管きょ開削	点検・清掃	現場内	下水道管路の布設工事において、地上から掘削面に降りる際、昇降設備(梯子)を使わずに、腹起しに足をかけて降りようとしたところ、足を滑らせて約1.5m下の地面に背中を強打した。	6.激突	59	男	右側肋骨骨折(ひび)

令和元年度
下水道に関する水質事故等発生状況について
(令和2年1月末現在)

国土交通省 水管理・国土保全局
下水道部

水質事故等発生状況

(令和2年1月末現在)

[総括]

(単位:件)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	水質事故等 合計	1 (4)	2 (6)	3 (2)	5 (9)	7 (3)	1 (8)	5 (4)	6 (4)	2 (3)	1 (5)	0 (3)	0 (1)	33 (52)
	累計	1 (4)	3 (10)	6 (12)	11 (21)	18 (24)	19 (32)	24 (36)	30 (40)	32 (43)	33 (48)	33 (51)	33 (52)	- -

[内訳]

(単位:件)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
事業主体	1. 都道府県	1 (1)	0 (1)	1 (0)	2 (4)	0 (0)	1 (0)	1 (2)	0 (3)	0 (0)	1 (3)	0 (1)	0 (1)	7 (16)
	2. 政令市	0 (0)	1 (2)	1 (2)	1 (0)	2 (2)	0 (0)	1 (0)	4 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	11 (7)
	3. 一般市	0 (3)	1 (3)	1 (0)	2 (4)	4 (1)	0 (7)	3 (2)	1 (1)	1 (2)	0 (2)	0 (1)	0 (0)	13 (26)
	4. 町村	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	1 (0)	0 (1)	0 (0)	1 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (3)
	5. その他	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	合計	1 (4)	2 (6)	3 (2)	5 (9)	7 (3)	1 (8)	5 (4)	6 (4)	2 (3)	1 (5)	0 (3)	0 (1)	33 (52)
発生施設	1. 管渠	0 (1)	0 (4)	2 (1)	1 (3)	1 (0)	0 (2)	1 (2)	2 (1)	2 (2)	0 (2)	0 (1)	0 (0)	9 (19)
	2. マンホール	0 (1)	0 (0)	1 (0)	1 (1)	1 (2)	0 (1)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	4 (6)
	3. 処理場	1 (2)	1 (1)	0 (1)	2 (4)	2 (0)	1 (3)	2 (2)	3 (2)	0 (0)	1 (2)	0 (2)	0 (0)	13 (19)
	4. ポンプ場	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)
	5. その他	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (0)	3 (1)	0 (2)	2 (0)	0 (1)	0 (1)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	7 (7)
	合計	1 (4)	2 (6)	3 (2)	5 (9)	7 (3)	1 (8)	5 (4)	6 (4)	2 (3)	1 (5)	0 (3)	0 (1)	33 (52)
原因者	1. 下水道管理者(委託先含む)	1 (0)	1 (3)	2 (2)	1 (4)	3 (0)	0 (1)	0 (1)	3 (2)	1 (0)	0 (1)	0 (2)	0 (1)	12 (17)
	2. 民間事業者(一般人を含む)	0 (2)	0 (2)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	1 (0)	3 (1)	1 (1)	1 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	8 (9)
	3. その他(天災、原因者不明含む)	0 (2)	1 (1)	1 (0)	3 (4)	3 (2)	0 (7)	2 (2)	2 (1)	0 (3)	1 (3)	0 (1)	0 (0)	13 (26)
	合計	1 (4)	2 (6)	3 (2)	5 (9)	7 (3)	1 (8)	5 (4)	6 (4)	2 (3)	1 (5)	0 (3)	0 (1)	33 (52)
事故類型	① 悪質下水の流入(放流水質が基準に不適合)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (1)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (3)
	② 悪質下水の流入(放流水質が基準に適合)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (1)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (1)
	③ 悪質下水の流入によらない放流水質の基準不適合	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (1)	1 (0)	0 (1)	0 (1)	0 (1)	0 (0)	0 (1)	0 (1)	0 (0)	1 (7)
	④ 雨水管からの悪質下水の流出	0 (0)	0 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (1)	0 (0)	1 (0)	0 (1)	1 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	3 (5)
	⑤ 下水道施設からの下水等の流出	0 (2)	1 (4)	2 (2)	1 (4)	3 (0)	1 (3)	1 (1)	3 (2)	1 (2)	0 (2)	0 (2)	0 (1)	13 (25)
	⑥ その他事故(①～⑤以外の事故)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	3 (0)	1 (0)	0 (2)	3 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	9 (2)
	水質事故 合計	0 (2)	2 (6)	3 (2)	5 (7)	6 (1)	1 (7)	5 (4)	4 (4)	2 (2)	1 (4)	0 (3)	0 (1)	29 (43)
その他案件	1 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (2)	1 (2)	0 (1)	0 (0)	2 (0)	0 (1)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	4 (9)	
水質事故等 合計	1 (4)	2 (6)	3 (2)	5 (9)	7 (3)	1 (8)	5 (4)	6 (4)	2 (3)	1 (5)	0 (3)	0 (1)	33 (52)	
状況分類	① 耐用年数経過	1 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (1)	0 (1)	0 (1)	0 (0)	3 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	4 (5)
	② 耐用年数以内	0 (2)	0 (2)	1 (0)	0 (2)	1 (1)	0 (1)	0 (0)	0 (1)	1 (2)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	3 (12)
	③ 天災等	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	合計	1 (2)	0 (2)	1 (1)	0 (3)	1 (2)	0 (2)	0 (0)	3 (1)	1 (2)	0 (1)	0 (1)	0 (0)	7 (17)

※状況分類については水質事故等において、事故発生原因が下水道施設の損傷または、設備の故障によるものを集計

※()内書きは、前年度(平成30年度)の値

※国土交通省へ報告のあった事故について集計

水質事故等情報データベース

令和2年1月末現在

NO.	発生年月日	事故情報			事故概要・対応	
		事業主体	発生施設	事故類型	事故概要	事故への対応
1月						
1	R2.1.15	1. 都道府県	処理場	水質事故	①悪質下水の流入による放流水質の基準不適合 浄化センターからの放流水のアンモニア、窒素及びリン濃度並びにCOD値が上昇し、生物反応槽の硝化菌(微生物)が極端に減少している可能性があり、悪水流入の疑いから重金属等を分析。流入水から六価クロムを検出(放流水は基準値適合)しており、日を追うごとに放流水のアンモニア、窒素及びリン濃度並びにCOD値が上昇傾向。放流水の採水分析結果で、リン汚濁負荷量が規制値を超過。	流入水への六価クロム混入による生物反応槽の硝化菌への影響を想定し、六価クロムの排出原因者の特定中。 監視体制の強化。保健所、水質汚濁防止連絡協議会を通じ、利水等のある関係機関に連絡。